

# 保育における“非認知的スキル”研究の現状と課題

－システムティックレビューに向けての予備的調査として

\* 香曾我部 琢

The Study of Implementation and Challenges on non-cognitive skill's research in childcare

KOSOKABE Taku

## 要 旨

本研究では、日本の保育実践において“非認知スキル”として示された多様な資質や能力について、どのような項目について研究されてきたのか、その状況をシステムティックレビューの手法を用いて明らかにし、今の課題や今後の保育領域における非認知的スキルの研究の展望について検討することを目的とする。ただし、本稿では、非認知的スキルの下位項目が多様なため、それらの整理と状況を把握するのみを目的とする。その結果、下位項目においても、他者との相互作用に関する資質や能力については研究が進められているが、楽観性や自制心などのトピックについては、未だ手がついていない状況で、二極化している現状を明らかにすることができた。

**Key words :** Non-cognitive Skill, systematic review, Optimism, self control

## 1. 問題と状況

### 非認知的スキルとは

近年、日本でもヘックマン (hackman, 2013)<sup>1</sup>のペリー就学前プロジェクトの成果が知られるようになり、幼児期の教育的効果として、認知的スキル (Cognitive Skill) だけでなく、その対概念である非認知的スキル (Noncognitive Skill) に光が当てられている (田口, 2017<sup>2</sup>)。ヘックマンは、このプロジェクトにおいて、成人になった際の個人の賃金の差異を、幼児期や児童期における記憶や学習など、知識を獲得しそれを操作する能力である認知的スキルだけでは説明がつかないことを明らかにした。そして、その際に、認知的スキル以外で、社会的な成功に関連する社会的、情動的な特性や性質について“非認知的スキル”と概念化した。近年では、OECDが協調性や集中力、探求力などの社会情動的な能力などを統合したスキルとして概念化した。

### OECDによる社会情動的スキルの定義

OECD (2015)<sup>3</sup>では、非認知スキルとして示された社会情動的な能力を“社会情動的スキル”とし、ビッグファイブと呼ばれる基本的なパーソナリティ特性の側面をもとに、「(a)一貫した思考・感情・行動のパターンに発現し、(b)学校教育またはインフォーマルな学習によって発達させることができ、(c)個人の一生を通じて社会・経済的成果に重要な影響を与えるような個人の能力」として、そのフレームワークを定義した。そして、社会情動的スキルには、「目的を達成する力」、「他者と協働する力」、「情動を制御する力」を含むことを示唆し、さらに、この3つの項目それぞれに、「忍耐力、自己抑制、目標への情熱」、「社交性、敬意、思いやり」、「自尊心、楽観性、自信」などを示した。

### 社会情緒的コンピテンシーとの関連

また、遠藤 (2017)<sup>4</sup>の研究プロジェクトにおいても、非認知的スキルのなかでも社会情緒的コンピテンシーに焦点が当てられている。そして、下位領域として、(a) 自己の領域、(b) 他者・集団の領域、(c) 自己-

\* 宮城教育大学 教育学部 家庭科教育講座

他者・集団の領域の3つの枠組みを設けて検討を行っている。また、非認知の心の性質の構成要素について、可塑性の度合いに応じて3層に構造していると定義した。まず、表層として比較的習得可能性が高いものとして、社会スキルやマナー、社会的ルール、規範などを挙げている。次に、深層として、早期に発達し、生涯を通して一貫性が高い構成要素として、気質やパーソナリティ、愛着に由来するといわれる「内的作業モデル」として自己信頼感を示した。さらに、表層と深層の間に、中層として、発達の過程において、経験の中で徐々に形成されるものとして自尊心、自己効力感、自制心、メタ認知能力、自己内省、他社への社会的行動、共感的態度、コミュニケーション・スタイルを上げている。

#### 幼稚園教育要領における非認知的スキル

また、文部科学省(2015)<sup>5</sup>においても、非認知的スキルを“学びに向かう力”として、3つの柱の内一つの柱である「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」の中で示した。そして、「主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。」「多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。」と述べている。

## 2. 研究目的

非認知的スキルが、それぞれの文脈において社会情動的スキルや社会情緒的スキル、学びに向かう力と定義づけられ、それぞれにおいて具体的な資質や能力が示された。しかしながら、それぞれの定義で示された資質や能力には共通した部分と、独自に示した項目が存在し、その多様性が示唆された。そこで、本研究では、日本の幼児期の教育・保育実践において、非認知的スキルとして、どのような資質と能力が対象となり、どの程度研究が進められてきたのか、その全体的な状況を明らかにしようと考えた。

## 3. 研究方法

### ガイドラインについて

本研究では、先行研究で非認知的スキルとして具体的に示された多様な資質や能力について、とくに幼児教育・保育実践を対象とした先行研究をレビューすることを目的とする。そこで、システマティックレビューのガイドラインである Preferred Reporting Items for Systematic Review and Meta-Analysis (PRISMA) 声明に基づいて作成されたチェックリストをもとにレビューを行った(卓ら, 2011)<sup>6</sup>。ただし、本稿では、システマティックレビューの第1段階として、多様な資質や能力ごとに先行研究を示し、その全体的な状況を明らかにすることを目的としているため、チェックリストにある「結果の統合」以降は、今後、資質や能力ごとに実施していく予定である。

### 文献検索の手続きについて

日本の幼児教育・保育において非認知的スキルとして示された多様な資質と能力がどのように研究されてきたのか、その全貌を明らかにすることを目的としている。そこで、国立情報学研究所データベース(Cinii)を用いて文献検索を行った。最終検索月日は、2019年9月27日、検索期間は1980年1月1日から2019年9月27日で、対象言語は日本語とした。

まず、文献検索にあたって、非認知的スキルと同様の概念として示された社会情動的スキル、社会情緒的スキル、学びに向かう力と、それらの類似した語を抽出して、それぞれの語を含んだ検索式を作成した(Table 1 参照)。次に、それぞれの概念を示した先行研究において示された具体的な資質や能力を抽出し、それぞれの語を含んだ検索式を作成した(Table 2 参照)。最終的に、以上の検索式で得られた文献を「教育」、「保育」、「幼児」、「乳児」の語でさらに抽出した。

### 文献の選択方法とその手順

文献検索によって抽出した文献を選択した手順を以下に示す。(1) まず、1次スクリーニングとして、Table 1 に示した語を先行研究から抽出し、包含規準として、その基準に準じて取り込みを行った。包含規準は以下のとおりである。①日本語で記載されている文献。②原著論文。また、除外基準は以下の通りである。①日本国外の保育実践を対象としたもの。②幼児教育・保育を対象としていない論文。

## 4. 結果と考察

### 非認知的スキルの検索結果

日本では、非認知的スキルの研究については、Table 1 に示したように、2019年9月の段階で Cinii による検索では13件しかないが、その他の同様の概念も含めると354件の論文が検索された。また、幼児や

保育、教育などの語彙による検索では146,504件となった。最終的に、非認知的スキルと幼児・保育の検索で103件の文献を抽出することができた。包含規準による1次スクリーニング、除外基準による2次スクリーニングによって、最終的に22件の文献を抽出することができた。

Table 1. Cinii による検索式と結果

番号	検索語	field	件数
#1	“非認知的スキル”	[Free word]	13
#2	“非認知スキル”	[Free word]	22
#3	“社会情動的スキル”	[Free word]	23
#4	“社会情緒的スキル”	[Free word]	1
#5	“学びに向かう力”	[Free word]	85
#6	“非認知”	[Free word]	251
#7	#1 OR #2 OR #3 OR #4 OR #5 OR #6		354
#8	“幼児”	[Free word]	71468
#9	“乳児”	[Free word]	17148
#10	“保育”	[Free word]	65328
#11	“幼児教育”	[Free word]	11957
#12	“幼稚園”	[Free word]	33556
#13	“こども園”	[Free word]	1031
#14	#7 OR #8 OR #9 OR #10 OR #11 OR #12 OR #13		146504
#15	#6 AND #13		103

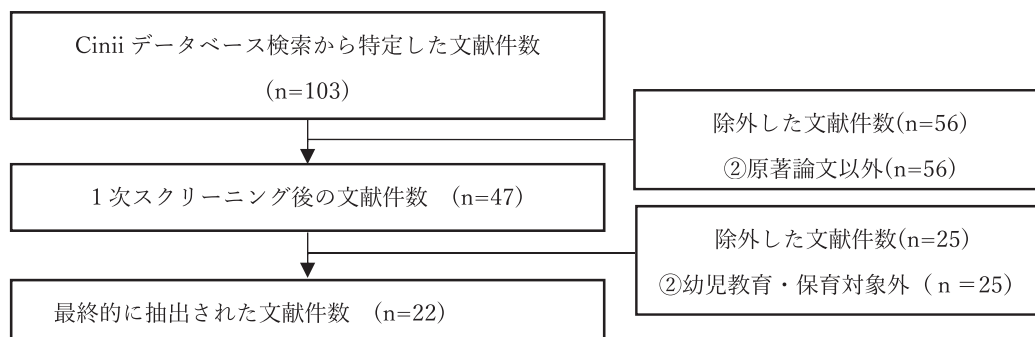


Figure 1 保育における非認知的スキル研究の文献選択のフローチャート

### 非認知スキルの下位項目（具体的な資質や能力）による検索結果

まず、OECD (2015) に示された下位項目についてそれぞれ検索を行った。次に、遠藤 (2017)、文部科学省(2015)において示された項目について検索を行っ

た。その結果、下位項目として31件の語が選定され、それら全体で250972件の論文が抽出された。さらに、#14との AND 検索によって5072件、タイトル検索において2241件の論文が抽出された。

Table 1. Cinii による検索式と結果

番号	検索語	field	件数
#16	“ 忍耐力 ”	[Free word]	114
#17	“ 自己抑制 ”	[Free word]	267
#18	“ 目標への情熱 ”	[Free word]	0
#19	“ 情熱 ”	[Free word]	2601
#20	“ 目標の達成 ”	[Free word]	655
#21	“ 社交性 ”	[Free word]	134
#22	“ 敬意 ”	[Free word]	571
#23	“ 思いやり ”	[Free word]	1667
#24	“ 自尊心 ”	[Free word]	938
#25	“ 楽観性 ”	[Free word]	173
#26	“ 自信 ”	[Free word]	7275
#27	“ 協働 ”	[Free word]	22763
#28	“ 情動制御 ”	[Free word]	101
#29	“ 実行機能 ”	[Free word]	1031
#30	“ 自制心 ”	[Free word]	56
#31	“ 内発的動機 ”	[Free word]	889
#32	“ 自律性 ”	[Free word]	2870
#33	“ 社会的スキル ”	[Free word]	1872
#34	“ マナー ”	[Free word]	7318
#35	“ 規範 ”	[Free word]	12620
#36	“ ルール ”	[Free word]	27937
#37	“ 気質 ”	[Free word]	4140
#38	“ パーソナリティ ”	[Free word]	6139
#39	“ 信頼感 ”	[Free word]	1120
#40	“ 自己効力感 ”	[Free word]	3602
#41	“ メタ認知 ”	[Free word]	2237
#42	“ 内省 ”	[Free word]	2098
#43	“ 社会的行動 ”	[Free word]	1220
#44	“ 共感 ”	[Free word]	7005
#45	“ コミュニケーション ”	[Free word]	139241
#46	#1 OR #2 OR……OR #29 OR #30	[Free word]	250972
#47	#46 AND #14	[Free word]	5072

#48	#46 AND #14	[Title]	2241
#49	“忍耐力” AND #14	[Free word]	6
#50	“自己抑制” AND #14	[Free word]	68
#52	“目標への情熱” AND #14	[Free word]	0
#53	“情熱” AND #14	[Free word]	11
#54	“目標の達成” AND #14	[Free word]	9
#55	“社交性” AND #14	[Free word]	5
#56	“敬意” AND #14	[Free word]	11
#57	“思いやり” AND #14	[Free word]	154
#58	“自尊心” AND #14	[Free word]	40
#59	“楽観性” AND #14	[Free word]	5
#60	“自信” AND #14	[Free word]	295
#61	“協働” AND #14	[Free word]	605
#62	“情動制御” AND #14	[Free word]	16
#63	“実行機能” AND #14	[Free word]	69
#64	“自制心” AND #14	[Free word]	9
#65	“内発的動機” AND #14	[Free word]	40
#66	“自律性” AND #14	[Free word]	54
#67	“社会的スキル” AND #14	[Free word]	198
#68	“マナー” AND #14	[Free word]	82
#69	“規範” AND #14	[Free word]	185
#70	“ルール” AND #14	[Free word]	257
#71	“気質” AND #14	[Free word]	189
#72	“パーソナリティ” AND #14	[Free word]	186
#73	“信頼感” AND #14	[Free word]	57
#74	“自己効力感” AND #14	[Free word]	109
#75	“メタ認知” AND #14	[Free word]	44
#76	“内省” AND #14	[Free word]	39
#77	“社会的行動” AND #14	[Free word]	232
#78	“共感” AND #14	[Free word]	433
#79	“コミュニケーション” AND #14	[Free word]	2020

## 考察

検索の結果から、保育における非認知スキルの研究として22件の論文が抽出され、非認知スキルの下位項目として示された資質や能力として30語が選定されて、すべての項目として5072件の論文が抽出された。本来ならば、5072件の論文をさらに、フローチャートによってスクリーニングをすべきであるが、まだ5000件を超える状況であった。そこで、それぞれの下位項目の件数を#14と AND 検索を実施した。その結果が#49以降の件数となる。まだ、これから、フローチャートによる抽出が必要となるが、この#49から#79までの数をみるとコミュニケーションや協働、共感などの幼児同士や保育者などの他の他者との相互作用に関する文献が多いことが理解できる。また、自律性や社会的スキルなど社会性と関連する気質や性格についても多くの文献が見られる。一方で、目標の情熱や社交性、自制心、楽観性など、ほとんど文献が見られない項目があった。この少ない下位項目については、保育や幼児教育の領域だけでなく、それらの語句を用いた論文

自体が少ないことが#16から#46までの数を観ると理解できる。やはり、一般的に論文にしにくい項目と、論文にしやすい項目は、幼児を対象にしていようが、成人を対象にしていようが関係のないことが理解できる。

## 5. 今後の課題と展望

現在、日本において非認知的スキルについては多様な下位項目がそれぞれの定義におじて設定されている。そのため、研究タイトルに非認知的スキルが盛り込まれていても、研究によって異なる下位項目について検討している状況が見られる。本研究の知見を活用して、非認知的スキルとして示された多様な下位項目を整理、分類するだけでなく、それぞれの項目において示された先行研究の知見を質的・量的に統合して、新たな知見として示すことで、幼児期における非認知的スキルの発達の実相がより明確に示すことができるのではないだろうか。

(令和元年9月27日受理)

- 
- 1 Heckman, J.J. (2013) Giving kids a fair chance, MIT Press,
  - 2 田口達也 (2017) 非認知的スキルと第二言語学習：やり抜く力とセルフ・コントロールの視点から. 龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報龍谷大学グローバル教育推進センター研究年報. (26), p.63,
  - 3 OECD (2015) 家庭、学校、地域社会における社会情動的スキルの育成—国際的エビデンスのまとめと日本の教育実践・研究に対する示唆. バネッセ教育総合研究所
  - 4 遠藤利彦 (2017) 非認知的 (社会情緒的) 能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書. 国立教育政策研究所
  - 5 文部科学省 (2015) 初等中等教育分科会 (第100回) 配布資料 論点整理 新しい学習指導要領が目指す姿
  - 6 卓興綱, 吉田佳督, 大森豊緑 (2011) エビデンスに基づく医療 (EBM) の実践ガイドライン システムティックレビューおよびメタアナリシスのための優先的報告項目 (PRISMA 声明). 情報管理. 54 (5) : 254-266.